

人間看護学研究科履修モデル

1. 基盤看護学分野

1-1. 精神看護教員、卒後継続教育担当者あるいは実習指導者として看護教育に携わりたい学生が履修する場合

①修士論文テーマ：精神科外来通院者への精神療法的アプローチ開発に関する研究

②履修科目

区分	<基盤看護学分野> 授業科目		1年次		2年次		計
			前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2				2
		看護研究方法論	2				2
	選択	看護教育論	2				2
	択	臨床対人関係特論	2				2
		コンサルテーション論	2				2
専門科目	選択	精神の健康生活評価法	2				2
	択	精神看護援助方法論		2			2
		必修	精神看護関連技法演習		2		
	科修	メンタルケア展開演習		2			2
		基盤看護学特別研究				8	8
	選	スピリチュアルケア演習		2			2
		択	老年健康生活特論	2(集中)			
計			14	8		8	30

看護者として、精神科外来通院者への関わりの焦点となる内容には、服薬管理状況・日常生活のリズム・対人関係の調整等があげられる。これら焦点化された内容に対する効果的な関わりには、的確な治療的コミュニケーション、アセスメント技術、他職種とのコンサルテーション力等が必要である。また、効果的な関わりのありようを、精神療法的アプローチとして位置づけ、包括・体系化することが可能であり、包括・体系化することで、新たな精神看護アプローチ法の開発につながる。

精神看護アプローチ法の開発を達成し、この成果を現場に還元していくために、「看護教育論」「臨床対人関係特論」「コンサルテーション論」を共通科目の中から選択する。また、研究テーマを、幅広い視野から、かつ統合的・論理的に考究するために、「精神の健康生活評価法」「精神看護援助方法論」「精神看護関連技法演習」「メンタルケア展開演習」を学ぶ。さらに、老人の心身機能評価を探求し、心理側面のみならずスピリチュアルな側面からも援助できるように、「老年健康生活特論」「スピリチュアルケア演習」を選択履修する。

本学生は将来、実践者及び管理者、院内教育担当者、看護教員を志向している。

1-2. 現在保健師として職を持っている学生が履修する場合

①修士論文テーマ：市町村の行政施策としての健康教育活動に関わる保健師の特性に関する研究

②履修科目（3年間の在学コースを想定）

区分	<基盤看護学分野> 授業科目		1年次		2年次		3年次		計
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2						2
	必修	看護研究方法論	2						2
	選択	看護政策論			2				2
	選択	コンサルテーション論			2				2
	選択	家族看護学特論			2				2
専門科目	選択	地域看護学特論	2 (集中)						2
	選択	地域看護技術特論	2						2
	必修	地域看護学演習		2					2
	必修	地域看護技術演習		2					2
	必修	基盤看護学特別研究					8		8
	選択	地域看護学実践演習				2			2
	選択	老年健康生活特論			2 (集中)				2
計			8	4	8	2	8		30

市町村における保健師活動は、地域の特性に基づく的確な保健活動を行うことが求められる。特に、地域における健康問題を解決するための保健師特有の活動方法のひとつに、地域の健康問題を解決するための政策決定への参加、企画等がある。このような保健師特有の活動をエビデンスに基づきながら専門的立場で実践するために、ここでは健康教育に焦点をあて、その活動に関わる保健師に求められる特性とは何かについて追究する。

そのためには、地域看護の対象者や家族を含めて幅広く理解し、先進的な支援方法及び他職種との効果的調整機能を追求するために、「看護政策論」「家族看護学特論」「コンサルテーション論」を学ぶ。加えて、地域看護活動の実践において、地域の健康問題・行政課題を明らかにするための科学的な方法を理解し、的確に活用する能力が必要となる。そこで、「地域看護学特論」「地域看護技術特論」「地域看護学演習」「地域看護技術演習」「地域看護学実践演習」を学ぶ。また、高齢化の進む地域への対応に向けて「老年健康生活特論」を選択履修する。2年次後期には特別研究着手の準備にとりかかる。

本学生は、県あるいは市町村における保健活動においてリーダー的役割を担う保健師を志向している。

2. 生涯健康看護学分野

2-1. 母性看護学教員あるいは、助産師の資格を有し女性の健康支援に携わりたい学生が履修する場合

①修士論文テーマ：働く女性のリプロダクティブヘルスに関する研究

②履修科目

区分	＜生涯健康看護学分野＞		1年次		2年次		計
	授業科目		前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2				2
		看護研究方法論	2				2
	選択	看護政策論	2				2
		看護倫理	2				2
		家族看護学特論	2				2
専門科目	選択	母性看護学特論		2			2
		母性看護学演習		2			2
	必修	小児家族看護学特論	2 (集中)				2
		小児家族看護学演習		2			2
		生涯健康看護学特別研究			8		8
	選択	地域看護学特論	2 (集中)				2
地域看護学演習			2			2	
計			14	8	8		30

助産師の活動する場は、分娩を中心とした周産期の援助から、生涯を含めた領域へと拡大している。さらに生殖医療の進歩から、不妊看護、遺伝看護の領域での専門的知識をもったケアが期待されている。こうした活動の展開においては、看護の基本的概念である生命の尊重・倫理、家族社会への深い理解が必須である。

「母性看護学特論」「母性看護学演習」では、すでに助産師であることを踏まえ、さらに女性の健康支援をエビデンスに基づいて実践するための知識、そして女性のヘルスアセスメントに必要な技術の習得をはかる。また「小児家族看護学特論」「小児家族看護学演習」において女性・母性だけでなく小児・家族への支援のあり方を考え、「地域看護学特論」「地域看護学演習」では、市町村等を単位として展開する地域看護活動に焦点をあて、個人・家族（夫婦）・集団の問題解決のための教育的介入や学習援助に関するエンパワーメント育成理論の活用について探究する。

本学生は将来、管理職、看護教員、実習指導者を志向している。

2-2. 入院から退院後の生活までを視野に入れた継続看護の観点から、実践の現場で指導的役割を担う看護師を目指す学生が履修する場合

①修士論文テーマ：周手術期における患者の心的状況と術後せん妄発症の関連性及びその予防的ケアに関する研究

②履修科目

区分	＜生涯健康看護学分野＞ 授業科目		1年次		2年次		計
			前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2				2
		看護研究方法論	2				2
	選択	看護政策論	2				2
		継続療養特論	2				2
		看護教育論	2				2
専門科目	選択	成人継続看護学特論		2			2
		成人継続看護学演習		2			2
	必修	成人健康支援特論		2			2
		成人健康支援演習		2			2
		生涯健康看護学特別研究			8		8
	選択	精神の健康生活評価法	2				2
	看護技術学特論	2 (集中)				2	
計			14	8	8		30

術後せん妄に関する研究については、経過パターン、関連因子の把握を試みる研究、患者・家族の心的状況の調査研究など、近年数多く発表されるようになってきているが、発展的な研究を展開するにあたっては、先行研究から得られた知見を系統的に整理するとともに、患者・家族のライフスタイル・家庭環境等を分析し、より高いレベルのエビデンスを構築することが求められる。また、入院中の患者の心的状況に関連する様態急変を抑制するために、入院前のリスクファクター評価・予防対策等が必要となる。

これらを包含した研究を継続させるための知識として、「継続療養特論」「看護教育論」及び「精神の健康生活評価法」「看護技術学特論」を選択し、患者教育を主体とした医療・看護領域で適用できる予防概念等について考察する能力を高める。このような知識を深めることによって、実践的な研究へと発展させていくことができる。

本学生は将来、管理職、看護教員、実習指導者を志向している。

2-3. 老年看護教員、卒後継続教育担当者あるいは実習指導者として看護教育に携わりたい学生が履修する場合

①修士論文テーマ：在宅虚弱高齢者への社会資源活用プログラムに関する研究

②履修科目

区分	<生涯健康看護学分野> 授業科目		1年次		2年次		計
			前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2				2
		看護研究方法論	2				2
	選択	看護教育論	2				2
		看護政策論	2				2
		家族看護学特論	2				2
専門科目	選択	老年看護援助論		2			2
		老年サポート技術演習		2			2
	必修	老年健康生活評価演習		2			2
		老年看護援助展開演習		2			2
		生涯健康看護学特別研究			8		8
	選択	老年健康生活特論	2(集中)				2
		地域看護学特論	2(集中)				2
計			14	8	8		30

要援護高齢者が増加する中、虚弱高齢者の寝たきり予防は重要な課題の一つである。特に在宅で過ごされている虚弱高齢者の場合、当事者の日常生活のありようや同居家族（介護者）の健康状態・経済状態等が寝たきり関連因子（内的要因）として示唆されている。また、当事者らが社会資源について十分に認知し、有効に活用しているかという点（外的要因）を究明していくことも、効果的な看護サービスを提供する上で不可欠であると思われる。

ここでは、「看護教育論」「看護政策論」「家族看護学特論」の学びを通して、教育的指導者あるいはケアコーディネーターとしての資質を高めていく。専門科目では、「老年健康生活特論」「老年看護援助論」「老年健康生活評価演習」「老年看護援助展開演習」および「老年サポート技術演習」を履修することで、老年看護領域における高度な実践能力を習得する。さらに、「地域看護学特論」を選択することによって、地域（在宅）で生活する高齢者のヘルスニーズの把握・評価・援助法、健康生活に欠かせないネットワーク構築等を探究し、研究内容の汎用性をふくらませていく。

本学生は将来、老年看護領域の、実践者及び管理者、院内教育担当者、看護教員を志向している。